



ひまわりノ畑



教育目標 思索・和敬・剛健

R7学校スローガン 笑顔とあいさつそしてありがとう

<http://www.kivose.ed.jp/~kivosedai/kyouu/uzakku/index.htm>

江戸野菜と川越から東京探検そして古都(奈良,京都)へ ～夏空の下、2学年校外学習に行ってきました！～

6月18日(水)、2年生は、校外学習で、東京の「街探検」に出かけました。この日は、梅雨前線も一休みとなり、もう夏が来たか！と思うほど、湿度も気温も高くなりましたが、生徒たちは自分たちで計画したコースを汗をかきながらも、楽しそうに行動してくれました。その様子は学年だよりなどで紹介されますので、ご期待ください。

清瀬第五中学校では、総合的な学習やキャリア教育として、各学年で、様々な学びに取り組んでいます。その核となるのが、1年生の江戸野菜作りと川越校外学習、菅平スキー移動教室、そして2年生の東京校外学習と清瀬市近郊での職場体験、さらに3年生の修学旅行という体験学習です。これら以外にも講演会などたくさんの学びがあります。

生徒にとって、校外学習や宿泊行事は、学校生活の中でも楽しみにしている大きなイベントです。楽しい気持ちで五感を使って、面白く学んだことは、深く記憶に残るもので、楽しく学ぶことは大切なことです。

そしてこの体験学習の中には、清瀬市教育委員会が掲げる「清瀬の子供たちに育てたい5つの力」や本校の教育目標・目指す生徒像など基にした「学びの目的」があり、教科や道徳、特別活動、進路学習、生徒指導などの目的と合わせて、それらを縦系と横系として織り込んで、3年間での繋がりができるように教育計画を立てています。



2学年の校外学習のスローガンは、

「未来に向けて学べ！ 良いまちづくりのコツを」です。

そして今回、生徒たちに与えられたミッションは、2つです。

テーマⅠ『清瀬に活かせるようなSDGsを探そう！』

「SDGsの目標11 住み続けられるまちづくりを」の視点での見学

テーマⅡ『清瀬市民に伝えたい校外学習で発見して驚いたこと！』

班ごとに、下のテーマに沿った見学先を分担して、情報発信

- ①日本の伝統工芸・芸能 ②日本の食文化 ③国際理解 ④科学技術の発展
- ⑤スポーツ・文化の発展 ⑥外国の方に紹介したい東京の名所（建築物。庭園など）

この学びを通して子供たちに身に付けてもらいたい力は、下の2つです。

- チームで働く力 ・班行動を主体とした活動を通して、一人ひとりが自分の仕事に責任を持ち、積極的に行動する力
- 考え抜く力 ・事前事後学習や当日の経験を通して、課題の設定や課題を解決する能力
- ・テーマに沿って訪問先を調べ、見学をすることにより、日本の伝統や文化、国際理解等に関心を高め、SDGsの理解を深める。

さて、生徒たちは、どんな「コト」に出会い、どんな経験をしたのか、事後学習での報告が楽しみです。

■ 3つの賞 と 1点の価値 【運動会】

本校の運動会には、学年優勝、団優勝、そして、団結賞という3つの賞があり、それぞれに賞状と、盾・カップ・トロフィーのいずれかが授与されます。実行委員のメッセージの中に「三冠制覇」という言葉がありました。その他の賞としては、8の字の全体優勝があり、さらに100m走、8の字、リレー種目については、新記録の賞もあり、今年は、3年生女子100mで、記録賞授与がありました。すごいね！ 学年を超えて競い合う「8の字」全体優勝があるのも、五中の特徴です。運動会は、日頃の体育の授業等の成果の発表の場であり、この種目は、3年間継続して、培ってきたことの成果発表であり、今年は、明らかに、3年生の力量が勝っていたように感じます。

●**学年優勝**は、学年毎に学級で競う賞ですが、今年の2年生と3年生は「1点差」という結果でした。点数算出方法の特徴は、個人種目の順位、個人縄跳びの完走者数などが、ダイレクトにポイントになるところです。この1点は「1位になれた！ 一人抜いた！ 抜かれたけど完走した！ 粘って残った！」など、一人ひとりの1点であり、1つひとつの力が積み上げた、一人ひとりの結果でもあります。

●**団優勝**の点数算出の特徴は、個人種目は相対的な順位点として、影響力はより、1～3年生でチームを組んで力を合わせた競技に重点が置かれているのが特徴で、全員の力を融合した結果をしめています。

●**団結賞**は、点数や結果によらない評価で、上の2つとはまったく異なるものです。観戦して下さった保護者や地域の方や教員の感性という「数値化できない評価」で決まるもので、とても深い価値があります。

どれが1番の賞か？という質問がありそうですが、それは無意味のようです。それぞれが運動会の目的にそっており、全く異なる意味で、同等の価値があります。



■ 良いとこ沢山 五中の運動会！ 普通のように、じつは凄い！

● 「五中の運動会は、一体感がすごいね！」

平日にも関わらず、十小の鈴木校長をはじめ、多くの来賓の方々に来校して頂き、感謝いたします。清瀬市教育委員会の宮川氏（教育長職務代理者）は、開会式からご参加下さりました。当初の予定より、長く昼近くまで生徒たちに声援を頂き、「五中の運動会は、一体感があるね、生徒席で応援している生徒たちが、みんなグラウンドの方に顔を向けて、違うところを見ていたり、喋ってる生徒がおらず、どの生徒も競技をしている選手を応援しているね。」と、思いがけないところを褒めてくださいました。でも本校運動会の目指す本質を指摘してくださったようで、すごく嬉しい言葉です。

● 「入退場がないんだ、イイね！」

演技図を見たときに入退場門がなく、「競技の入退場は？」と尋ねてみると、直接、選手待機場所に集合をしますとのことでした。スムーズに進行をするには、招集・確認・誘導・入退場を行うという概念があったのですが、これは、生徒にとっては「してもらう」とう受け身の方法です。五中では、そののこを、生徒の意識と責任感に任せ、一人ひとりの主体性に委ねるというちょっと大胆な方法ですが、任せられた生徒たちの当日の集散は、川が流れるように、とても自然で違和感はなく、まさしく、生徒が主役の五中です。

● 「会場に、ロープが張ってないんだ、スッキリだね！」

競技に支障がないように立ち入りを制限をするロープが、会場には見当たりません。生徒が自席から集散するので危ない面もありますが、エリアの制限はラインと必要最低限のネットのみです。けれども、生徒も観客の皆様も、ロープがあるかのごとくの観戦でした。これも生徒に任すという五中らしさですね。

● 「伴奏がないんだ、すてきな校歌斉唱ですね！」

開会式ではなく、競技でヘトヘトになっているだろう閉会式で校歌斉唱があります。しかも、伴奏なしのア・カペラです。生徒たちがしっかりと歌ってくれるという信頼があるからできることですね。確かに、オリンピックの表彰式で国歌演奏を聴きながら歌う選手たちは、清々しい表情をします。成し遂げた後に歌う校歌は、やはり遂げた者でしか味わえない格別なものですね。

